

2023年11月16日

## 「IR優良企業賞2023」発表

一般社団法人日本IR協議会（会長：泉谷直木 アサヒグループホールディングス株式会社特別顧問）は、このほど「IR優良企業賞2023」受賞企業を決定いたしました。

「IR優良企業賞」（審査委員長・北川哲雄 青山学院大学名誉教授、東京都立大学特任教授）は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を挙げた企業を選び表彰することを目的としており、今年で28回目を迎えます。審査では、主に下記の点を重視して受賞企業を選定いたしました。また今年は「日本IR協議会設立30周年記念表彰」も設けました。

- 【収益力を持続させる成長戦略】 インフレや金利など外部要因の変化に関わらず、継続的に収益力を高める成長戦略を実行。研究・開発、事業、人材(財)などに積極投資し、株主還元も適切に実行して、投資家の期待に応える経営を説明・対話する取り組み
- 【対話で得られた「気づき」の活用】 経営戦略やコーポレートガバナンス、サステナビリティなどをテーマに投資家と建設的に対話。経営層、事業部門責任者に加え、社外取締役なども参加。対話で得られた「気づき」を取締役会や企業グループ全体で共有し、目指す姿に近づける取り組み
- 【企業価値・社会価値を結びつけて向上】 気候変動対応や人的資本への投資、女性活躍推進などサステナビリティ関連の取り組みを、投資家の視点でわかりやすく説明。さらにステークホルダーと協働し、企業価値・社会価値向上につなげる道筋を、定量的な指標や活動例の紹介などを通じて説明・対話する取り組み
- 【中長期視点の海外投資家と個人投資家の支持獲得】 資本生産性向上に期待する海外投資家の視点を踏まえて説明資料や対話機会を拡充。投資に関心を持つ個人に対しても説明会などを通じ、新たな株主層として開拓する取り組み
- 【リスクの早期認識と対応】 地政学リスクや情報セキュリティ問題の拡大などによって、先行きの見通しが難しいなか、リスクの認識を早めに示し、対応していることを示す取り組み

北川審査委員長は、「今年度の受賞企業は、いずれも経営トップが明晰に企業価値創造戦略を語っている点が注目されます。克服すべき経営課題の把握や、資本コストや株価を意識した経営を行うとともに、事業部門責任者や社外取締役が投資家と対話する機会の設定、サステナビリティやガバナンス関連のテーマを絞った意欲的な説明会の開催等々、IR活動を多面的な角度から強化し深化させています。奨励賞受賞企業も、経営層を中心にわかりやすい説明や対話に努め、投資家の理解を促しています。また長年にわたってIRレベルを引き上げ、安定的に継続して高い

評価を得ている企業も注目されます」と語っています。

審査対象は、日本 I R 協議会の会員企業のうち株式を公開している企業で、2023 年の応募企業は 347 社となりました。受賞企業は I R 優良企業大賞 1 社、I R 優良企業賞 7 社、I R 優良企業特別賞 2 社、I R 優良企業奨励賞 2 社の 12 社です。受賞企業の主な選定理由とこれまでの受賞歴は、別紙に記載しています。

#### **I R 優良企業大賞 受賞企業**

株式会社日立製作所

#### **I R 優良企業賞 受賞企業（社名 50 音順）**

株式会社アシックス

株式会社荏原製作所

中外製薬株式会社

株式会社野村総合研究所

日立建機株式会社

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

株式会社村田製作所

#### **I R 優良企業特別賞 受賞企業（社名 50 音順）**

株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ

三井化学株式会社

#### **I R 優良企業奨励賞 受賞企業（社名 50 音順）**

株式会社 IMAGICA GROUP

株式会社トリドールホールディングス

#### **日本 I R 協議会 設立 30 周年記念表彰・特別賞**

オムロン株式会社

#### **各賞の概要は下記の通りです。**

##### **I R 優良企業賞**

日本 I R 協議会の会員でかつ、株式を公開している企業を対象に、毎年選定・表彰しています。

##### **I R 優良企業大賞**

I R 優良企業賞を直近 10 年以内に 2 回受賞し、3 回目も受賞に値すると評価された企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。なお、受賞翌年から 2 年間は「I R 優良企業賞」の対象から除外されます。

##### **I R 優良企業特別賞**

I R 優良企業賞に応募した企業のうち、継続的に I R のレベルを高めている、業界のリーダーとして I R に積極的である、個人投資家向け I R の評価が高い——など、活動内容に特徴の見られる企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。

## **I R優良企業奨励賞**

I R優良企業賞に応募した企業のうち、東証スタンダード市場や東証グロース市場、その他新興市場に上場する企業、また東証プライム市場であっても新規に株式を公開後10年目以内の企業、およびI R優良企業賞に初めて応募する企業のうち中小型株企業を主な対象として表彰しています。2002年より表彰をスタートさせました。

### **審査方法は3段階で、下記のとおりです。**

- ① 応募企業が提出した「調査票」の結果をもとにした第1次審査（287社が第2次審査へ進出）
- ② 審査委員のうち、証券アナリスト、機関投資家、ジャーナリストなどの専門委員13名がI R優良企業賞審査対象企業214社、奨励賞審査対象企業73社を評価する第2次審査
- ③ 専門委員による第2次審査をもとに、学識経験者、弁護士等も加わった審査委員全員による最終（第3次）審査

### **「日本I R協議会 設立30周年記念表彰」を設けました。**

- ① 日本I R協議会 設立30周年記念表彰・特別賞  
中長期にわたってI R活動を継続し、適切な情報開示と建設的な対話のレベルを高める取り組みが認められる日本I R協議会会員企業を特別に表彰するものです。I R優良企業賞の審査委員会が2007年から2023年までの17年間の審査結果を基に選考しました。
- ② 「I R向上企業プレミアム」「I R継続企業プレミアム」の公表  
この選考の対象となった企業のうち、対象期間中、審査委員の高い評価を安定的に得ており、I R向上を目指す努力が認められる企業を「I R向上企業プレミアム」（70社）、この期間に連続してI R優良企業賞に応募し、中長期にわたってI R活動を継続していると認められる企業を「I R継続企業プレミアム」（70社）として公表することにいたしました。企業名は日本I R協議会ウェブサイト <https://www.jira.or.jp> をご参照願います。

### **「“共感！” I R賞」を選定いたしました。**

“共感！” I R賞（共感賞）とは、I R優良企業賞の開催25回目を機に2020年に新設したもので、I R優良企業賞に応募した企業の視点を「投票」によって反映させ、積極的なI R活動を共有し、ベストプラクティスの実現を目指すことを目的としています。2023年は「I R部門の人材育成とパワーアップのための取り組み」をテーマといたしました。詳細および選定企業につきましては日本I R協議会ウェブサイト <https://www.jira.or.jp> をご覧ください。

※本ニュースリリースの英語版は日本I R協議会ウェブサイト <https://www.jira.or.jp> にてご覧いただけます。

**問い合わせ先：** 一般社団法人日本I R協議会 事務局

T E L : 03-5259-2676 F A X : 03-5259-2677

**日本I R協議会とは：**1993年設立のI R普及を目的とする非営利団体。会員数は685（2023年10月1日現在）、主な活動はI Rの研修活動、調査・研究、企業間の交流など。

<https://www.jira.or.jp>

## 【別紙】受賞企業の主な選定理由と受賞歴

### I R優良企業大賞 受賞企業

#### 日立製作所

(2022年・2020年・1996年優良企業賞)

2020年、2022年のI R優良企業賞受賞後もハイレベルのI R活動を続けている。継続的に開催しているInvestor Dayや決算説明会においては、投資家からのフィードバックを踏まえて内容を進化させている。サステナビリティ関連の説明会も、人的資本などテーマ別に開催しており評価されている。2023年の統合報告書はページ数を前年度に比べて半減させたが、幅広い事業を分かりやすく伝えることを目指し、説明機会も設けている。

### I R優良企業賞 受賞企業 (社名 50 音順)

#### アシックス

(初受賞)

経営トップを中心に意欲的にI R活動を拡充している。経営戦略の方向性などを担当役員がわかりやすく伝えている。事業・地域別の情報開示も詳細である。グローバルな製品市場でのポジションや競争を意識した情報開示も特徴的である。戦略を理解してもらおうという姿勢が明確で、充実した対話につながっている。多様な切り口で開催する「インベストメントデイ」は注目を集めており、I Rイベントとして高い評価を得ている。

#### 荏原製作所

(2022年優良企業賞)

経営トップが積極的に投資家やメディアと対話し、明確なメッセージを示している。決算説明会に加えてスモールミーティングや工場見学会などを実施し多面的に投資家の理解を促している。事業別ROIC(投下資本利益率)もセクター内では先進的に開示している。説明会の内容や質疑応答はスクリプトが公表されており、活用しやすい。社外取締役との対話機会も継続して設けており、取締役会議長と投資家との対話内容は統合報告書にも掲載されている。

#### 中外製薬

(2020年優良企業賞)

経営層がI Rを重視し、中長期視点で投資家と対話する機会を設けている。情報開示も充実し、決算説明会資料は継続的な収益力分析に役立つと評価されている。イベント開催にも積極的で、ESGやDXなどのテーマを設けた説明会を通じて関心に応えている。医薬関連学会のフォローアップや疾患に関する知見を得るためのミーティング、研究施設見学会などR&D関連の詳細な説明や対応もきめ細かい。社外取締役が投資家と対話する場の設定も評価されている。

#### 野村総合研究所

(2017年優良企業賞)

経営トップが積極的にI Rに関与し、投資家の声を踏まえて対話を続けている。I R部門は経営トップと距離が近く、投資家の関心事項を伝えていることが読み取れる。経営層と投資家とが事業環境や課題認識を共有しているため、中期経営計画の説明が明晰である。計画の前提や海外事

業に関する情報開示の姿勢などに高い評価が集まっている。統合報告書の内容、ESG 説明会や事業説明会の開催についても高い評価を得ている。

## 日立建機

(2019 年特別賞)

近年、経営戦略や業績見通しの説得力が高まっている。日立製作所との資本関係変更後、23 年 4 月に公表した中期経営計画は注力分野を明確に示しており、意欲的な姿勢への評価が高い。経営層の I R への理解が深まり、事業計画の合理性や業績変動の分析・見通しの精度も高まっている。投資家の関心に応じて I R 活動も拡充している。経営トップとの対話機会や事業戦略の進捗説明、事業説明会や工場見学会の I R イベント開催なども評価されている。

## 三菱UFJフィナンシャル・グループ

(2019 年大賞/2018 年・2017 年優良企業賞)

経営トップが投資家の目線に応える I R 活動を進めている。一貫性のある中長期戦略とともに、環境変化の影響や PBR への意識といった関心事についてもタイムリーに説明している。経営目標などに関する投資家の情報ニーズを的確に把握していることから、対話の実効性が実感できる。

I R 部門には説明に必要な情報が蓄積されており、資料も工夫されている。社外取締役とのミーティングは取締役会におけるモニタリング機能を確認するよい機会になっている。

## 村田製作所

(2022 年特別賞)

経営トップが継続的に I R に関与している。昨年インフォメーションミーティング(会社説明会)で説明した事業の「3層ポートフォリオ」や、成長のためのキャピタルアロケーション、手元流動性のレベル設定などは、引き続き高い評価を得ている。投資家からの面談要請が増える中、I R 部門は対応力を高めている。複数の I R 担当者が戦略面・技術面ともに説明できる体制を整え、回数、内容とも充実度を増している。ESG に関する説明も評価が高い。

### I R 優良企業特別賞 受賞企業 (社名 50 音順)

## コンコルディア・フィナンシャルグループ

(初受賞)

昨年、就任した経営トップが急速に I R 活動を強化している。トップの企業価値向上に対する意識が強く、メッセージは明解である。投資家と積極的に対話する姿勢にも評価が高い。環境が厳しい金融界のなかにあって克服すべき経営課題を認識し変革を打ち出す I R 活動は注目を集めている。CEO や CFO とのミーティング機会の拡大、テーマ別説明会 (IR Day) や社外取締役とのミーティングの実施、開示資料の精緻化なども加速度的に進めている。

## 三井化学

(2022 年・2014 年優良企業賞/2013 年特別賞)

総合化学業界をリードする I R 活動を続けている。経営トップは積極的に経営方針を説明し、開示と行動に一貫性があると評価されている。先行き不透明な状況が続く中、構造改革やグリーン投資への意欲も伝わってくる。早くからサステナビリティ関連の情報開示や説明会の評価を得て

きたが、社外取締役と投資家との対話機会や人的資本投資の説明も充実させている。決算の変動要因の説明や投資家が注目する領域の開示を拡充させたことへの評価も高い。

#### **I R優良企業奨励賞 受賞企業（社名 50 音順）**

##### **IMAGICA GROUP**

（初受賞）

一見わかりにくい事業の理解を促そうとする I R の意識が高い。I R サイトの構成も個人投資家や初めて関心を持つ機関投資家が情報にアクセスしやすい。説明会資料には業績変動要因を理解するための情報が掲載され、中期経営計画の戦略領域と事業セグメントとの関わりもわかりやすくなった。新サービスの発表時には展示会や説明会を開催するなど、事業の中身をより具体的に示す I R にも力を入れている。資本市場の目線を意識した対話にも積極的である。

##### **トリドールホールディングス**

（初受賞）

CEO や CFO の I R 関与が積極的であり、定期的に投資家と対話している。ミーティングに加えて店舗見学会などにも参加してコミュニケーションを取っており、経営層から I R 部門まで自社の競争優位性をわかりやすく示すことに努めている。I R 部門の対応も丁寧であり、決算発表と同時に想定質問への回答を公表している。将来のリスクになり得る為替の見通しや事業戦略の一貫性が確認できる M&A の予算枠といった情報開示も評価されている。

#### **日本 I R 協議会 設立 30 周年記念表彰・特別賞**

##### **オムロン**

（2012 年大賞/2015 年・2007 年・2006 年優良企業賞/2018 年・2005 年特別賞）

I R 優良企業賞の審査において、長期にわたって高い評価を得ている。安定的な評価に加え、先進的な取り組みによって年々レベルも引き上げている。経営トップが自らの言葉で戦略や見通しを語る姿勢、他社に先駆けた ROIC 経営の導入、コーポレートガバナンスやサステナビリティといった非財務要素を企業価値向上に結び付けようとする取り組みなどは、多くの企業や投資家から注目を集めてきた。時代に即して I R を強化してきた姿勢は高く評価されている。

※【I R 向上企業プレミアム】、【I R 継続企業プレミアム】については、日本 I R 協議会ウェブサイト <https://www.jira.or.jp> をご参照願います。

以上